

令和6年度 第3回 学校運営協議会・学校関係者評価委員会（議事録）

岡山県立岡山西支援学校
開催：令和7年2月27日
10:00～11:50

出席者

■ 学校運営協議会委員

岡田委員、河田委員、祇園委員、熊代委員、澤井委員、武縄委員、田中委員、友末委員、萩原委員、宮野委員、粟津委員

■ 本校職員

宮内副校長、兼信事務長、小銭教頭、小田教頭、頃末主幹教諭、森分進路指導主事、竹内生徒指導主事、青木指導教諭、板野指導教諭

1. 開会

【 会長 】

今年度の最後の会となる。本会において、次年度の方向性を協議していきたい。また、会を通して、児童生徒や卒業生が、よりよい生活を送ることができるようにしていきたいと考えている。

2. 報告及び協議

(1) 令和6年度 報告

- ① 学校関係者評価
- ② 高等部の進路状況
- ③ いじめ対策
- ④ 防災教育
- ⑤ 五校園の連携

* 上記5項目について、資料をもとに担当者が報告を行っている。

【 意見・質問等 】

安全

Q：報告では「避難訓練を熱中症アラート発令のため、屋外への非難は行わず、教室内の初期対応のみとした」とあった。避難訓練を行うことは重要なことだと考えているが、次年度についてはどう考えているか。

A：今年度と同じスケジュールで実施すると、次年度も同じように屋外避難の訓練ができない可能性が高い。そのため、時期の変更を計画している。

いじめ対策

◆ 「いじめ見逃しゼロ」をスローガンに取り組んでいることは、とても評価できる。また、細かく記録をとり、活用していることもよい。

(2) 専門部会

* 各部会での協議及び情報交換等を行った。

(3) 全体会（専門部会での協議内容等の報告）

① 福祉・就労部門

- 出席委員より障害者の就労に関する資料が提示され、それをもとに話を行った。
- R06 に法改正があり、障害者の報酬が改訂された。そのため、A 型事業所が減少し、B 型事業所の利用者が増えている。
- A 型事業所は、現在厳しい状況にある。今後は B 型事業所も同じようになっていくかもしれない。
- 学校は現在の事業所の運営状況等について、ある程度の知識はあったが、今日の会でより詳しく知ることができた。
- 今後、教師向けの研修を実施していきたいと考えている。
* 委員：保護者に対しても、進路を考える上で必要な情報となるので、しっかりと伝えてもらいたい。

② 教育支援部門

- 「ボランティア」「交流教育」「センター的機能」の3点について話し合った。
- ボランティア：「本校の農場管理について、地域の方の力を借りることができないか。」「中学校には“園芸部”もあるという話だったので、中学生の力も活用することはできないか。」という話題になった。
- 交流教育：「御南中の参観日に、保護者を対象として販売活動を行うことができないか。」「御南まんまるこども園が定期的に御南西公民館を利用している。来所日に高等部の販売活動を合わせることで、より本校教育を知ってもらうことができ、交流につなげることができるかもしれない。」という話題になった。
また、「居住地校交流を積極的に進めていくことで、地域とのつながりが強くなる。災害に強い地域を創ることができるのではないか。」「共生社会の担い手としては、今の児童生徒が中心となっていく。いろいろな取り組みを積極的に進めていきたい。」とも。
- センター的機能：五校園でのつながりに限らず、学区の学校園より助言の依頼を受けている。指導教諭が中心となって、訪問し、アドバイスをを行っている。

③ 安全・防災部門

- R07 年度に、地域と協同しての避難訓練を行う予定。
- 県内特別支援学校の中には、PTA が中心となって「学校を福祉避難所としていきたい」という話が出てきているようだ。本校も、同じようになっていく可能性もある。
- ひらた旭川荘での工事が完了見込みである。新しくできる設備については、福祉避難所としての機能を持たせている。ハード面での整備が整ってきたので、ソフト面での整備を行っていきたい。
- 児童生徒にとっては、「見知らぬ場所」である地域の避難所を活用することは難しいかもしれない。通いなれた学校に避難することができればよいが、避難に対するハードルを下げる必要がある。「人慣れ・場慣れ」のために、様々な福祉サービスの活用が必要になってくる。

【意見・質問等】

Q：「引き渡し訓練」については、引き渡し時に身分証の提示を求めているとのこと。災害時には身分証を持たずに迎えに来る場合があるかも知れない。本当に確認が必要か？

A：引き渡し時に事故があってはいけないので、念のため確認させてもらっている。

◆ 伝統的に地域とのつながりが強く、児童生徒が地域に出ていきやすい環境にある。日常的に地域に出ていくことが、児童生徒の将来の「生きる力」に結びつくことになると思う。

◆ 地域の学校との「日常的な交流」を推進していくことも重要ではないか。

(4) 令和7年度学校経営計画（案）

- 本校校長より「教育課程に反省、学校運営協議会での協議、岡山県特別支援教育推進第四次プラン等をもとにした」と作成の経緯と、以下の点について説明を行った。

① 自立活動について

- 自立活動の指導に重点をおいていきたい。
- 教師の専門性を高め、効果的な指導に取り組んでいきたい。
- 県の研究指定を受けて、今後2年間、指導の充実を図っていく予定である。

② 地域連携について

- 様々な取り組みがされているが、校内での共有が十分でなく、「他学部が何をやっているか知らない」という教師も多い。より連携を強化していくため、「連携内容の見える化」を検討している。

③ 人権尊重

- 「コンプライアンスの遵守」「不適切な指導の排除」等、意識高く行っていきたいと考えている。

【意見・質問等】

- ◆ このように、学校の課題について、毎年見直しを行っている点が評価できる。
- ◆ 子どもの権利について内容に盛り込んでいる点が評価できる。また、コミュニケーションの指導を行っていくことが、児童生徒の「自立した社会生活」につながっていくと思う。しっかりと取り組みを行ってほしい。
- ◆ 校長：成果に結び付けていきたい。

⇒ 内容について承認された。

3. 閉会

【委員】

子どもたちの周りに、子どもの未来を信じる人（支援者）がいることで、子どもの未来が明るいものになっていく。“支援する人”として、今後も子どもたちの力を信じることをお願いしたい。